

いわての福祉団体を紹介!

一般社団法人 岩手県難病・疾病団体連絡協議会



一般社団法人岩手県難病・疾病団体連絡協議会（難病連）は、平成12年に設立された団体です。今回は、難病相談支援員の根田豊子さんにインタビューをしました！

Q どんな団体？

現在、国の指定難病338疾病のうち、岩手県難病連は34の加盟団体で構成されています。県の委託事業で日々の難病相談を受けており、県内の保健所・市町村・医療福祉相談室等と連携を取りながら、医療講演会・ピアサポート研修会・交流会・電話・来室相談、在宅療養患者さんのための市町村巡回キャラバン等をしています。

Q 印象に残るエピソードは？

難病連では、内部障がい・内部疾患の患者さんのためにハートプラスマークを作成しました。難病患者さんは、表面上は健康な人と変わらないように見えますが、実は、朝夕の時間によって会話や動作が難しくなったり、手足に力が入らなくなったりする人もいます。障がいの説明をしなくても、目に見えるマークで発信することを考えたのが、ハートプラスマークです。マークを付けた方から「外出先で、何人の方から優しく声掛けがあった」と嬉しい報告もありました。

●話すことの大切さ

難病は長くて難しい病名が多いので、多くの人は告知されても頭が真っ白になって、自分の病名すら覚えていません。同じ病気であっても、一人ひとり症状は違います。周りに合わせようと無理をせず、自分らしく生きてほしいと思います。電話や来室相談では、壁にぶつかっていることなど、何でも話すことが大切だと思います。話することで自分なりに心の整理ができ、周りの理解も得られるようです。

Q 今後の目標は？

難病連がでてから21年間、賛助会員・医療機関・岩手県の皆さんの大いな力添えで今があります。難病も個性の一つなので、自分を責めなくて良い。みんなで支え合いながら、心の通う福祉社会を目指していきたいと思います。

お問い合わせ・相談はこちらへ

〒020-0831 盛岡市三本柳8-1-3 ふれあいランド岩手内

■ 岩手県難病相談・支援センター

TEL: 019-614-0711 Mail: iwanan@io.ocn.ne.jp

■ 岩手県小児慢性特定疾病児童等自立支援センター

TEL: 019-637-7878

Mail: iwanan.shoman@dune.ocn.ne.jp

岩手銀行労働組合から 使用済み切手が寄贈されました

8月2日、岩手銀行労働組合（鈴木大夢執行委員長）から本会へ使用済み切手5,900gの寄贈がありました。

同組合は、「いわて車いすフレンズ」の活動が始まった平成15年度から継続して取り組んでおり、使用済み切手の寄贈は今回で20回目となります。

今回寄贈していただいた使用済み切手は、修理した車いすを海外へ輸送する際の費用の一部として役立てていきます。



鈴木大夢執行委員長（左）と
加藤勝洋事務局次長

「いわて車いすフレンズ」とは

県内の工業高校生を中心に、利用されなくなった車いすを修理・整備し、車いすを手に入れることができない東南アジアなどの方々に修理した車いすを贈る活動です。これまで、累計19か国に1,033台の車いすを寄贈しました。

▶お問い合わせ先

岩手県社会福祉協議会ボランティア・市民活動センター
電話: 019-637-4483

TOPIX

北日本銀行から 寄付金が贈呈されました

9月7日、北日本銀行本店において、北日本銀行から本会へ1,260,200円の寄付金の贈呈が行われました。

寄付金は、同行が事務局として活動してきた「きたぎんふるさと大学」の一部を閉校した際の、残余財産を寄付していただいたもので、災害発生時の災害ボランティアセンターの活動資金として役立てていきます。

なお、NPO法人フードバンク岩手、子どもの居場所ネットワークいわてへも寄付金が贈呈されました。



石塚恭路取締役頭取（右）と
長山洋会長

新任職員紹介

岩手県社会福祉協議会・ふれあいランド岩手に次の職員が配置されました。どうぞよろしくお願いします。

●地域福祉企画部

川瀬 昌子 相談支援員（8月1日付）

新畠 幸花 相談員（8月17日付）

佐藤 奈保子 相談支援員（9月16日付）

●福祉人材研修部

釜島 豪顕 キャリア支援員（8月1日付）